

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ChouChou		
○保護者評価実施期間	令和6年 8月 20日 ～ 令和7年 2月 19日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	令和6年 8月 20日 ～ 令和7年 2月 19日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の敷地には限りがあるので、事業所に隣接している公共の公園を利用し、広々と療育プログラムが行える。	一日の療育サイクルに、室外療育を取り入れ、児発と放デイとの療育環境を分け、それぞれに適した療育を提供する。	室外・室内の療育に、社会性のある一般ルールを取り入れ、SST向上を図る。
2	LSTの向上に向けて、おやつ時に疑似通貨を使用し、買い物の疑似体験を行っている。	昼食時の買い物など、隣接している食品売り場へ、定期的にLSTを兼ねてトレーニングしている。	少し距離の離れたお店にも実際に買い物に行き、交通ルールを学びながらよりLSTの向上を図る。
3	多種多様な療育イベントを企画し、児童に楽しく療育プログラムを取り組んでもらっている。	食育や創作イベント・外出支援など、飽きずに楽しく参加できる療育イベントを考えている。	土日祝日だけでなく、平日も療育イベントを開催する。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	天候次第で療育スペースの幅が変わり、療育環境の変化が不自由になってしまうことがある。	児発【未就学児】と放デイ【就学児】との空間的距離が近く、どうしても関わり合ってしまうことが多い	室内をパーテーション等で空間の区切りをつけ、児発と放デイとの空間的距離を保ちやすい環境を創る。
2	保護者の療育ニーズに適した専門的知識を持った職員【PT・OT・ST】の配置が不完全で、療育の幅が狭い。	保護者の療育ニーズに対する現職員の知識レベルが不足していると感じることがある。	社内研修・社外研修の他に会議等も通して、室内療育の幅を広げ療育手段を増やす。
3	人との関りが事業所内のみとなることが多く感じる。	公園に地域の子どもたちがいても、積極的に関りを持ったり職員が仲介になったりすることが少ない。	積極的に職員が仲介となり公園を利用している地域の子どもたちとの交流を図り、SSTを行っていく